



掘り起こしたのは 町に眠る縄文の記憶

profile
洞爺湖町または近郊の住民を対象に募集し、今年6月から9月末まで活動。

発掘が終わったのは9月ですが、現場で見られたのは作業員の笑顔。以前から興味があったという佐々木裕子さんは「石器や矢じりなどがこんなに出るのかと驚きました。土に対する目が変わりました」と充実した表情を浮かべました。

今回の調査で出土したのは、縄文土器、黒曜石の矢じり、石斧など約600点。発掘に打ち込む皆さんの情熱が、町に眠る古代の記憶を呼び覚ましてくれました。

東奔西走

洞爺湖リトルシニア出身の石垣元気投手が、プロ野球ドラフト会議で1位指名を受けました。甲子園では史上最速タイを記録。洞爺湖で磨かれた本格右腕の活躍と、チームの勝利を祈っています。(D.Y)

先月、名古屋市へ旅行に行ってきました。名古屋駅内を散策すると、札幌市よりも人が多く感じました。それだけ人気がある街なのだなと思った一方、自然あふれる洞爺湖町のほうが穏やかに暮らせそうだと改めて思いました。(Y.A)

Spotlight

スポットライト

栄遺跡発掘調査員の皆さん

住 宅が立ち並ぶ栄町の一角が掘り返され、むきだしの地肌が現れたのは今年の6月でした。作業の目的は土の中に眠る遺跡の発掘。はるか昔、縄文時代の人々が残した痕跡を今にゆみがえらせようとスコップを突き立てたのは10人の作業員。町内では14年ぶりに行われる発掘調査の始まりでした。

今回、発掘が行われた栄遺跡は噴火湾に面した高さ約15メートルの場所にあります。

2027年春の開所を予定している（仮称）「あぶた保育所」の駐車場の造成工事に合わせ、約800平方メートルの範囲内で行われました。過去には1998年にも調査が行われ、縄文後期の土器や石器が出土しています。

作業員は町の公募で集まってくれました。普段は仕事や家事などで遺跡や発掘調査とは無縁だった人がほとんど。もちろん、初めての発掘となり、学芸員からのアドバイスを受けながら慎重に地面を掘り返しました。一見、石ころのように見えても土器の破片などの可能性もあるため、ていねいに土を払い、注意深く細部を確認しては作業を進めてくれました。

厳しい暑さに見舞われた夏はテントを設置して日差しを遮りながら土と向き合い、大雨が降った時は泥だらけ。屈んだままの状態が長時間続くため、体力的なつらさもあります。

町公式LINEを友だち追加！

イベントや防災など様々な情報に加え、フルカラー版広報紙もご覧いただけます！

